



図2 兵庫県内のカワウ・サギ類
種別コロニー分布図

① カワウ

7コロニーが確認され、そのうち3ヶ所がサギ類との混合コロニーであった。また、県北部ではコロニーは確認されなかった。

② アオサギ

県内の63コロニーのうち54ヶ所で確認された。ササゴイを除く他のサギ類のコロニーのほとんど全てのコロニーで確認されている。

③ ダイサギ

県の比較的全域にわたって26コロニーが確認された。ダイサギのみのコロニーは確認されなかった。

④ チュウサギ

県北部、県南部、淡路島にわたって12コロニーが確認された。チュウサギのみのコロニーは確認されなかった。

⑤ コサギ

13コロニーが確認されたが、県北部では確認されなかった。コサギのみのコロニーは確認されなかった。

⑥ アマサギ

10コロニーが確認されたが、コサギと同様に県北部には確認されなかった。アマサギのみのコロニーは確認されなかった。

⑦ ササゴイ

県南部で3コロニーが確認され、いずれもササゴイのみの単独コロニーであった。市街地の公園などの孤立した林で、小規模なコロニーを形成していた。

⑧ ゴイサギ

県北部、県南部、淡路島にわたって21コロニーが確認された。そのうち、ゴイサギのみのコロニーは1ヶ所のみであった。

考察および今後の課題

- ・県内の63ヶ所のコロニーのうち、アオサギはその87%で確認されている。アオサギはコロニーの植生、環境ともにまんべんなく出現しており、また50羽以下の比較的小規模のコロニーが半数以上を占めていた。これらのことから、アオサギはコロニーの選択性に広い適応力があると考えられる。近年増加傾向にあると言われている要因の一つと思われる。
- ・コサギとアマサギのコロニーが日本海側で見られなかったことが特徴的であったが、以前は日本海側でもコロニーがあったとの証言・記録がある。両種とも50羽以上の比較的大規模のコロニーで繁殖する比率が高く、コロニーの規模との関連性の有無が疑われる。
- ・ササゴイの3コロニーは市街地の公園、街路樹と、いずれも人の往来の頻繁な場所の孤立林であり、他のサギ類とはコロニー環境の選択性が特に異なるようである。
- ・今回は、繁殖シーズンの途中からの調査であった。本来は、葉の茂っていない繁殖シーズン当初からの調査が望ましい。2008年3月に再度補足調査を行う予定である。
- ・近年増加傾向にあり、一部の自治体で繁殖抑制の試みが行われているカワウのコロニーは、今回の調査では日本海側には確認されなかった。しかし、カワウの飛来は確認されているので、実態の把握には京都府など近隣の自治体との連携も必要である。

謝 辞

今回の調査にあたり、下記の方々にコロニーの情報を提供していただきました。多くの皆様のご協力により、この成果がまとめられたことを改めて示しますとともに、心よりお礼申し上げます。(順不同・敬称略)

内田智之、香川裕一、菊池由美子、濱崎愛子、大迫義人、高橋信、本庄四郎、高津一男、久

後英世、内呑智美、石川修司、三ツ矢孝、丸橋寿夫、金光士、田中次夫、北浦昌二、工義尚、田中修二、村上あさ子、三谷康則、橋本清澄、平野修、中村圭輔、溝渕正昭、渡辺美郎、池口和三、片岡宣彦、伊賀文計、岡本良平、河藤昌子、原田恵子、田中葉子、下土居知子、大封裕介、岩崎健二、松重和太、重政慶三

また、人と自然の博物館の江崎保男先生、遠藤菜緒子先生、三橋弘宗先生には、全面的にご指導、ご協力いただきました。